



日本スーパーマーケット協会

平成25年12月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	60,509,930 万円	100.0%	103.4% (104.3%)	59,164,784 万円	100.9% (101.8%)
食 料 品	49,993,526 万円	82.6% (82.7%)	104.0% (105.2%)	47,660,667 万円	101.2% (102.4%)
農 産	7,267,385 万円	12.0% (12.3%)	108.5% (112.5%)	6,916,164 万円	105.8% (109.6%)
水 産	5,583,929 万円	9.2% (8.2%)	103.5% (104.1%)	5,322,438 万円	100.8% (101.0%)
畜 産	6,111,078 万円	10.1% (10.3%)	106.6% (108.0%)	5,809,865 万円	103.5% (105.0%)
惣 菜	5,186,467 万円	8.6% (8.5%)	105.5% (106.0%)	4,900,771 万円	102.2% (102.7%)
日配食品	10,677,732 万円	17.7% (18.6%)	104.1% (105.3%)	10,185,488 万円	101.3% (102.6%)
加工食品	15,166,935 万円	25.0% (24.8%)	100.7% (100.9%)	14,525,941 万円	98.1% (98.3%)
生活関連	4,331,499 万円	7.2% (7.0%)	100.4% (100.8%)	4,178,537 万円	99.3% (99.7%)
衣 料 品	2,160,465 万円	3.6% (4.0%)	94.3% (96.5%)	2,109,808 万円	94.5% (96.3%)
そ の 他	4,024,440 万円	6.6% (6.3%)	103.6% (101.7%)	5,215,772 万円	102.2% (101.1%)

② 数 値

全店総売上高	60,509,930 万円	店 舗 数	4,482 店舗
総売場面積	8,691,894.1 m ²	総従業員数	230,449 人

店舗平均月商	13,500.1 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,033 円 (101.5%)
月間m ² 売上(前月)	7.0 万円 (5.8 万円)	平均店舗面積	1,939.3 m ²
月間坪売上(前月)	23.0 万円 (19.1 万円)	パート比率(前月)	77.7% (77.3%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・生鮮部門が好調に推移し、食料品の既存店前年同月比は101.2%と7カ月連続で超過した。また、全店の既存店前年比は100.9%で3カ月連続で超過した
- ・降雨日が前年より下回ったことで、売上は順調に推移した
- ・事前予約販売のクリスマスケーキおよびおせちについては、昨年より少しでも贅沢に過ごしたい傾向からか、やや単価上昇でプチ贅沢傾向が伺えた
- ・冷凍食品の農薬混入事件が発生した為、冷凍食品に影響があった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・天候不順等で生育遅れ、不作の影響で青果の相場高のため、カット野菜の動向が良かった
- ・相場高の中、白菜、大根、人参、蓮根、玉ねぎなど鍋物材料、煮物材料の動きが良かった。また、サラダ果菜類においてはトマトが苦戦した
- ・果物ではみかんの食味が良かったため好調に推移した。また、いちごの動向も良かった

○ 水産

- ・ぶりの切り身、刺身が好調に推移した。特に、天然ものが好調だった
- ・カキは、昨年のノロウィルス報道の影響で売上を落とした裏年となり、本年の動向は良かった
- ・相場高騰の中、マグロの動きが良かった

○ 畜産

- ・牛肉全体で相場高が続く中、利益商材の切り落としを「すきやき用」として販売し、動向は良かった
- ・豚肉は相場高の中、全体的に好調に推移し、特にうす切り、しゃぶしゃぶクラスの動きが良かった
- ・鶏肉は相場高の影響で、点数は伸び悩んだが単価上昇により前年比を上回った
- ・加工肉は、ハム・ソーセージ類を中心に動きが良かった

○ 惣菜

- ・野菜相場高騰の影響で、生野菜サラダなどサラダ類の動きが良かった
- ・米飯類の動きが良かった。中でも、弁当、どんぶり類の動きが良かった

○ 日配・加工食品

- ・クリスマス向けのピザ、ヨーグルト類の動向は良かったが、年末の農薬混入事件が発覚したため、冷凍食品の動きは不振だった
- ・練商材の動向は良かった。また、しらたき、こんにやく類も好調に動いた

○ 「クリスマス商戦」について

- ・24日・25日（火・水）は平日のため、21日・22日（土・日）に動向が集中し、24日・25日はやや不振だった
- ・予約ケーキの動向は、本格的なケーキ（有名シェフオリジナルケーキ）やキャラクターの動きが良かった
- ・ケーキ材料の動きはやや不振も、即食系のデザートが好調に推移した
- ・スパークリングワイン、輸入ワインの動向が良く、中でもハーフサイズの動きが好調だった
- ・骨付きモモやモモ切り身の動きが良かった。また、周辺商品の手羽元の動きも良かった
- ・オードブルセットは、980円ラインを中心に動向が良かった
- ・クリスマスブーツなどの菓子類の動向は年々減少傾向である
- ・年々、洋風メニューの提案が増加傾向である

○ 「年末商戦」について

- ・年々、予約販売が増加しているおせちは、高価格帯の動向が良く、単価を押し上げた。また、偽装事件の影響からか、ホテルおせちの予約販売は激減した。年始はおせちを早々に切り上げ、通常に近い食事となる為か、年々、おせちセットの動向が好調に推移している
- ・刺身（マグロ・たこ・盛り合わせ）が好調に推移した。また、数の子類の動向も良かった
- ・相場高騰のエビは苦戦も、カニ類の動向は良かった
- ・天ぷらや握り寿司でも、上質なものの動きが良く、良いものを食したいという購買意識が伺え、全体的に、高単価品の動向が良かった

以上